

新版 指導要文集

しんぱん

しどうようもんしゅう

だいにしょう

じっせん

第二章 実践

かんき

ゆうらく

歓喜・遊楽

いま にちれんとう たぐ
今、日蓮等の類い、南無妙法蓮華經と唱えて歡喜する、こ
れなり

(095
御義口伝
おんぎくでん

かんき
歡喜・遊樂
ゆうらく
1035
ページー13
行

「喜^き」

とは、

自他共に喜ぶことなり。
じ たとも よろこ

095 御義口伝
おんぎくでん

歡喜・遊樂
かんき ゆうらく

1061

ページー
10行

じ た と も ち え じ ひ あ
自他共に智慧と慈悲と有るを、「喜」とは云うなり。

095 御義口伝
おんぎくでん

かん き ゆうらく
歡喜・遊樂
1061 ページ 12 行

わ　　こころほんらい　　ほとけ　　し

すなわ　　だいかんぎ

な

我が心本来の仏なりと知るを、即ち「大歓喜」と名づく。
いわゆる、南無妙法蓮華経は歓喜の中の大歓喜なり。

（095 御義口伝
おんぎくでん

かんき　　ゆうらく

歓喜・遊楽 1097 ページ 1 行

ごほんぞん　　たも

（御本尊を持つことによって、はじめて）自分自身が妙法の当体

さと

だいかんき

であると悟っていくことができます。これを大歓喜というのです。す

なんみようほうれんげきよう　　とな

じぶんじしん　　そくしんじようぶつ

なわち南無妙法蓮華経と唱えていくことは、自分自身の即身成仏

じつげん

かんき　　なか　　だいかんき

を實現していくのですから、歓喜の中の大歓喜なのです。

いっさいしゅじょう なんみょうほうれんげきょう とな

ほか ゆうらく

一切衆生、南無妙法蓮華經と唱うるより外の遊樂なきな

きょう い しゅじょうしよゆうらく しゅじょう ゆうらく ところ

り。經に云わく「衆生所遊樂（衆生の遊樂する所）」

うんぬん もん じじゅうほうらく しゅじょう

云々。この文、あに自受法樂にあらずや。「衆生」のうち

きでん 漏 たも しょ いちえんぶだい にほん

に貴殿もれ給うべきや。「所」とは、一閻浮提なり。日本

こく えんぶだい うち ゆうらく われ しきしん えしやう

国は閻浮提の内なり。「遊樂」とは、我らが色心・依正と

いちねんさんぜん じじゅうしん ほとけ ほけきやう たも

もに一念三千・自受用身の仏にあらずや。法華經を持ち

たてまつ ほか ゆうらく げんぜあんのん ごしやうぜんしよ

奉るより外に遊樂はなし。「現世安穩、後生善処」と

は、これなり。

しじょうきんごどのごへんじ しゅじょうしよゆうらくごしよ

かんき ゆうらく
歓喜・遊樂 1554 ページー6 行

ひと

なんみようほうれんげきよう

とな

あらゆる人びとにとって、南無妙法蓮華經と唱えるよりほかに

ゆうらく

ほけきようじゆりようほんだいじゆうろく

よ なか

遊樂はありません。法華經壽量品第十六には「(この世の中は)

しゆじよう

ゆうらく

ところ

ちゆうりやく

ゆうらく

衆生が遊樂する所である」とあります。(中略)「遊樂」とい

わたし

しんたい

こころ

かんきよう

せいめい

しんこう

うのは、私たちの身体と心、環境と生命が、信仰によつて、

いちねんさんぜん

せいめい

ほうそく

つよ

そのまま一念三千とい生命の法則のあらわれとなり、もつとも強

ほとけ

せいめい

はたら

ほけきよう

くきれいな仏の生命の働きになることです。ですから、法華經

ごほんぞん

しん

ゆうらく

ほけきよう

(御本尊)をたもち信ずるよりほかに遊樂はないのです。法華經

やくそうゆほんだいご

げんぜ

あんのん

のち

ぜんしよ

しやう

菓草喩品第五に「現世は安穩にして後に善処に生ず」とあるの

は、このことです。

しばらくの苦こそ候とも、ついにはたのしかるべし。

そうろう

楽

330 上野殿御返事 (神主等庇護の事)

うえのどのごへんじ

かんぬしとうひご

こと

歓喜・遊樂

かんき

ゆうらく

1901 ページ 10 行

よろこ とき こんじよう よろこ ゆめ なか ゆめ りようぜん

悦ばしからん時も「今生の悦びは夢の中の夢、霊山

じようど よろこ まこと よろこ おぼ あ

浄土の悦びこそ実の悦びなれ」と思しめし合わせて、

なんみようほうれんげきよう とな

また南無妙法蓮華経と唱え

374 松野殿御返事（十四誹謗の事）

まつのどのごへんじ じゅうしひぼう こと

歡喜・遊樂 かんき ゆうらく 1994 ページ 6 行

かしようそんじや

舞

舞

しやりほつ

迦葉尊者にあらずとも、まいをもまいぬべし。舍利弗にあ

た

踊

じようぎようぼさつ

だいち

出

らねども、立っておどりぬべし。上行菩薩の大地よりい

たま

踊

出

たま

で給いしには、おどりてこそいで給いしか。

だいあくだいぜんごしよ

(423 大悪大善御書

かんき

ゆうらく

歡喜・遊樂 2145 ページ 7 行)

かしようそんじや

ま

ま

しやりほつ

迦葉尊者でなくとも、舞いを舞うであります。舍利弗でなく

た

おど

じようぎようぼさつ

だいち

ゆじゆつ

ても立って踊るであります。上行菩薩が大地より湧出したと

おど で

しゆつげん

きには、踊り出るようにして出現してきましたのです。